

## 第2章 基本理念と将来像

### 1. 基本理念

構想策定の趣旨や前提条件を踏まえ、次のとおり基本理念を設定します。

#### ●まちにひろがる水辺ネットワークを活かす

本市は、地形的には傾斜の急な山間から丘陵と田んぼが広がる田園、平坦な市街地と変化に富んでおり、その中に相模川を幹として中津川や中小河川が枝状に広がり、市内各所に湧水、調整池、農業用水路などの暮らしや産業を支える水辺が点在しています。

本市の特徴は、このように多様な水辺が市内全域に広がり、市民の暮らしの中で水辺が常に身近にあるということです。

本構想では、市内全域に広がる水辺での取組をネットワーク(連携)することで、水辺をとおした憩い・交流・感動を享受できるまちづくりを目指します。

#### ●市民の多様な活動を受け止める

先述したとおり、本市には、多様な水辺が存在します。

これらの水辺では、日々の散策、子どもの学習、釣りやバーベキューなどのレジャー、観光、スポーツ、花畑づくり、まつりなどのイベントや地域コミュニティ活動といった様々な水辺の活動が展開されており、水辺を利用する人も市民から来訪者、子どもから高齢者に至るまで多様です。

本構想では、こうした利用実態を考慮し、多世代にわたる市民・来訪者の活動を受け止めることができるふれあい構想を目指します。

#### ●豊かな水辺の生物を育む

近年の川づくりにおいては、水と緑のオープンスペースを有する河川を軸として、治水的な安全のみならず、親水や景観、歴史や文化に配慮し、とりわけ生物にやさしい川づくりが求められています。

本市においても、河川などの水辺は、市民のレクリエーションに利用されるばかりでなく、動植物の貴重な生息空間として地域の生態系を支えています。

これからの本市の水辺整備においては、子どもの水辺学習やスポーツ・レクリエーション利用といった市民ニーズに応えつつも、自然と共存できる節度ある利用を心がけていく視点が重要です。

#### ●次世代に魅力的な水辺を継承する

近年、全国で地域住民と行政の協働による親水性や良好な景観、生物の多様性に配慮した魅力的な水辺づくりの活動が活発化しています。

これらの活動の多くは、水辺とそこで育まれた生き物や景観、文化を地域が長い年月をかけて守り・育ててきた地域固有の資源と捉え、それらの持続的な保全・活用を目指すものです。

本構想においても本市の環境条件、産業構造、生活文化が育ててきた多様な水辺を市民共有の財産と捉え、市民との協働のもと、次世代に魅力的な水辺として継承します。

## 2. 将来像

本構想では、将来像として、厚木市に住む人・訪れる人の多くが、本市の多様な水辺の魅力を実感し、水辺でのふれあい活動を通じて、水辺と人とのふれあいをより身近にし、豊かな生活を満喫することを目指しています。

そこで本構想では、水辺ふれあいを進める長期的な将来像のキャッチフレーズを次のように設定します。

**「千の水辺から憩い・交流・感動が生まれるまち あつぎ」**

## 3. 水辺の将来イメージ

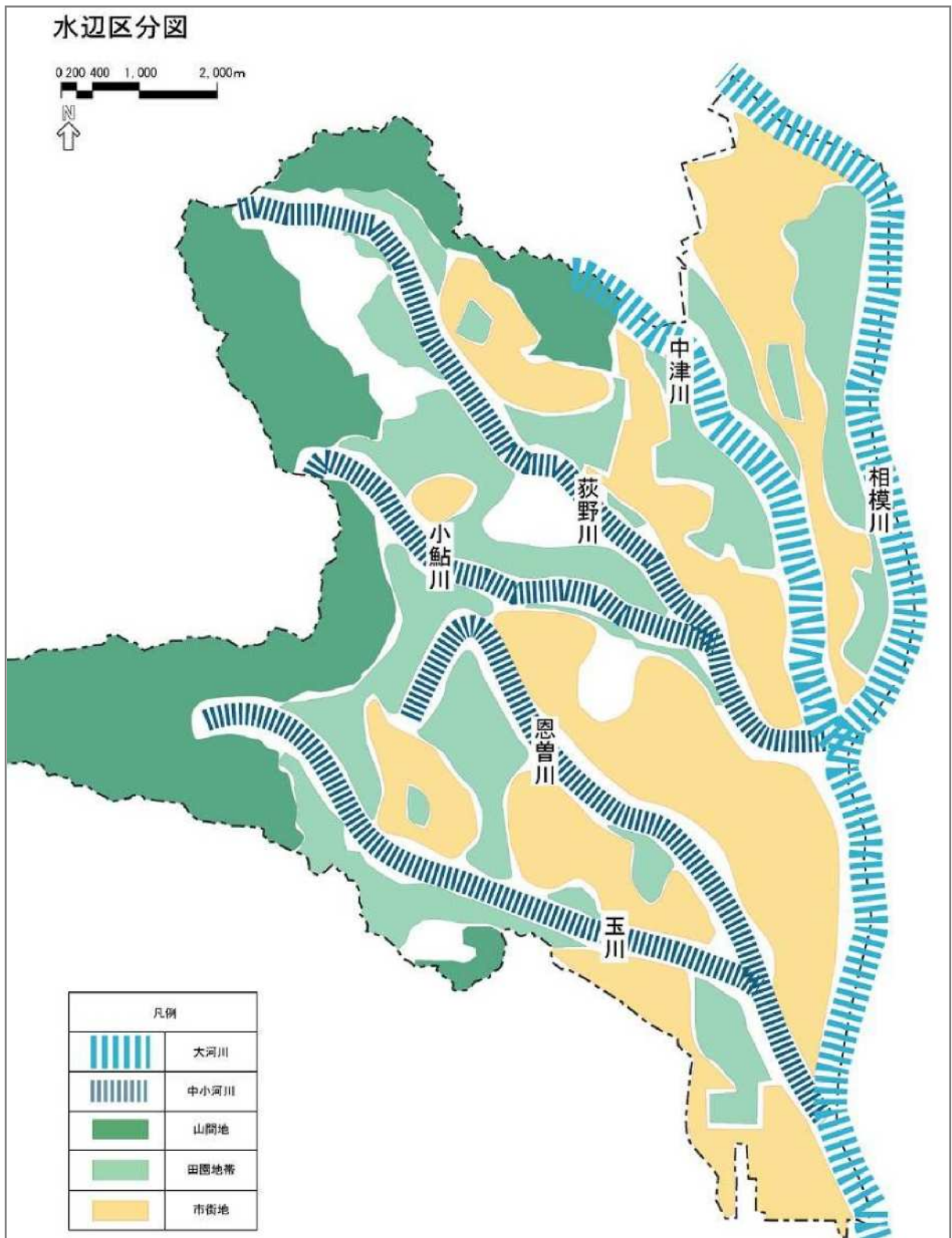
本市の水辺は、地形及び周辺土地利用より大きく区分すると、次頁の水辺区分図のように、

- 大河川の水辺（相模川、中津川）
- 中小河川の水辺（平地部の荻野川、小鮎川、恩曾川、玉川等）
- 山間の水辺（河川及び交流、滝、湧水、水田等）
- 田園の水辺（農業用水、水田等）
- 市街地の水辺（湧水、地下水、公園、学校、広場等）※河川は除く

の5つの水辺に区分されます。

各水辺には固有の水域特性があるため、水辺のふれあい活動もそれらの特性に大きく規定されます。

そこで次に、各水辺が目指すふれあいの将来イメージを整理します。



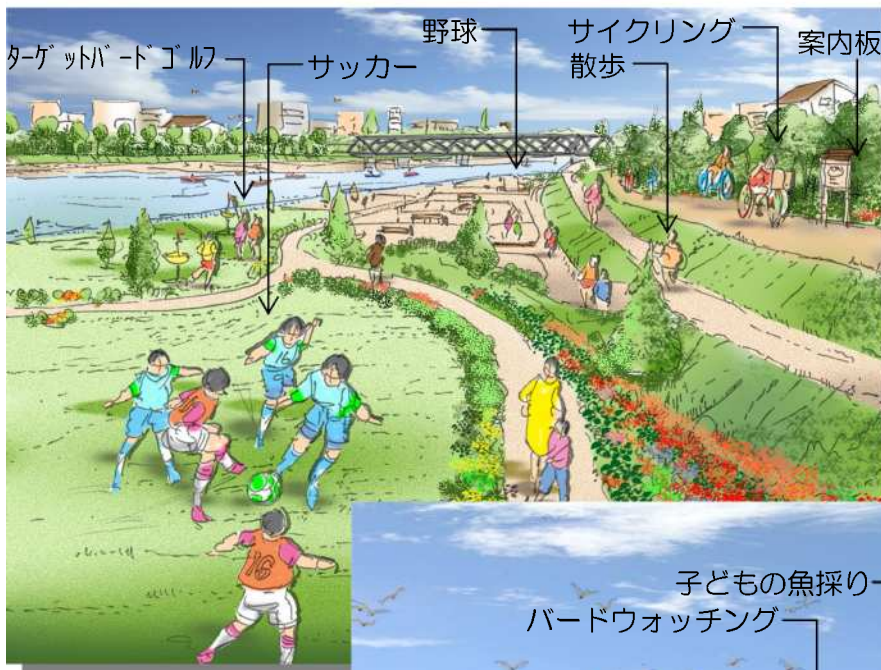
■大河川の水辺（相模川・中津川）の将来イメージ

厚木市を流れる大河川である相模川と中津川は、その広がりある河川敷空間を活かし、サッカーや野球などのスポーツが行われます。さらに河川敷では、花火大会などのイベントや花畑づくりが行われ、季節の風物詩となり、水面は、カヌーや釣りなどのレジャーを楽しむ人で賑わいます。また、市を南北に貫く水辺と緑の軸として、河川沿いの遊歩道では、散策やサイクリングに利用されます。

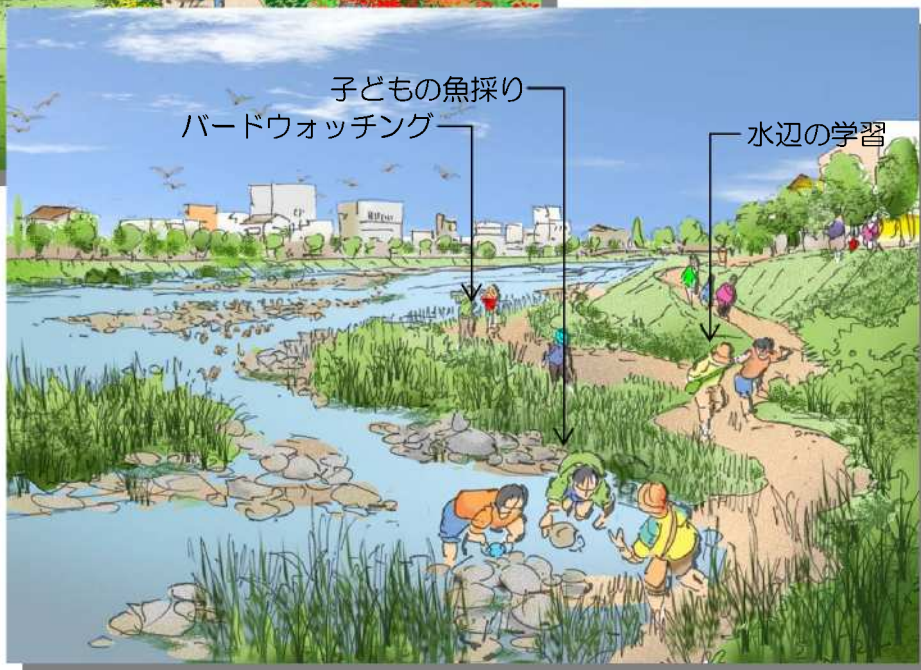
一方、河川敷の中でも自然豊かな箇所は、自然保全区間として利用ルールが定められ、水辺では、子ども達が自然観察などの水辺の学習活動に取り組み、バードウォッチングなどが行われます。

小学生・市民水辺アンケートからの考察

自然豊かな環境の保全とともに、広大なオープンスペースを活かしたレクリエーション施設やスポーツ施設の整備の両面が期待されます。



＜将来イメージ図＞  
スポーツ・レクリエーション利用



＜将来イメージ図＞  
自然環境保全と利用

### ■中小河川の水辺（平地部の荻野川、小鮎川、恩曾川、玉川 等）の将来イメージ

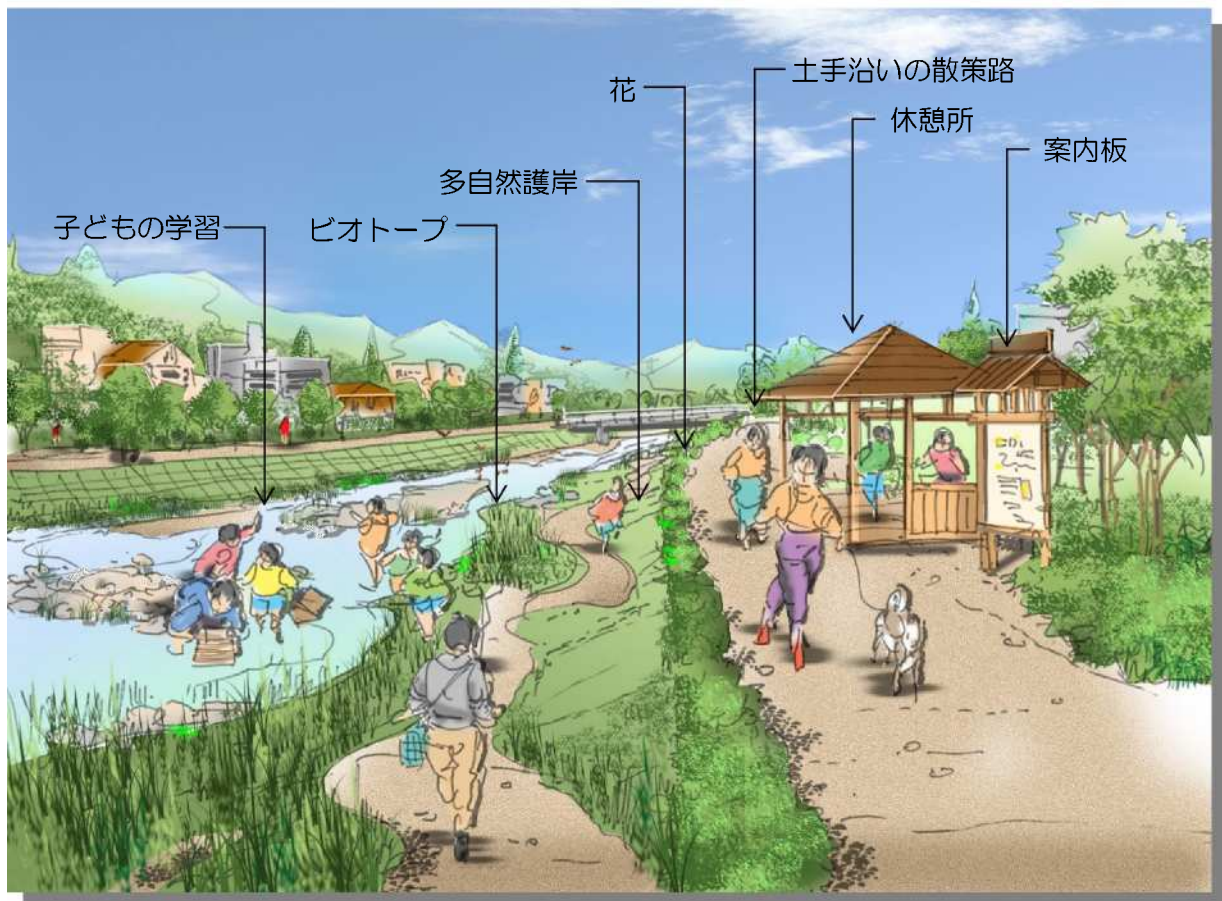
荻野川、小鮎川、恩曾川、玉川などの中小河川は、人々の暮らしに最も身近な水辺として日常的な散策などに利用されます。川沿いには散策遊歩道が整備され、市内の公園やため池、湧水などをネットワークし、水辺と緑のネットワークとして市民に親しまれます。

川沿いの散策遊歩道には、休憩施設や案内板が設置され、散策の楽しみが広がります。また、所々には親水空間やビオトープがあり、水際で野鳥の観察や水辺の学習活動が楽しめます。

#### 小学生・市民水辺アンケートからの考察

子ども達の身近な遊び場・学び場づくりとともに、「川沿いの散策」などの日常的なレクリエーションが楽しめるように、休憩所や歩道など河川沿いの散策路の魅力アップが期待されます。

#### <将来イメージ図> 親水利用と散策



■山間の水辺（河川及び支流、滝、湧水、水田 等）の将来イメージ

七沢や飯山、荻野などの山間部の水辺は、多くの観光資源(高いポテンシャル)があるため、緑と清流の空間として渓流沿いの散策、釣り、滝めぐりのガイドツアーなど、多くの観光客の自然系レクリエーションに利用されます。

また、観光地を中心に水辺の花づくりなどが行なわれ、清流沿いには、ホテルが飛び交い、季節ごとに観光客の目を楽しませてくれるような、自然と観光が共生します。

小学生・市民水辺アンケートからの考察

山間の豊かな自然を活かし、自然とふれ合う体験機会の提供とともに、季節変化の豊かな水辺を望む声が多いことから、花や生き物などを通じて四季の山の魅力を楽しめる水辺づくりが期待されます。



<将来イメージ図>  
自然とのふれあい



<将来イメージ図>  
観光地の水辺活用

■田園の水辺（農業用水路、水田 等）の将来イメージ

市街地の周辺に残された農地では、田んぼを使った学校農園や、体験プログラムが実施されます。田園の水辺の目指す姿は、子ども達が農業体験を通じて、地域農業への理解を深めるとともに、田んぼの動植物とのふれあいを楽しむことができ、大人も休日の農業体験をとおして、スロースタイルを楽しむ場が生まれます。

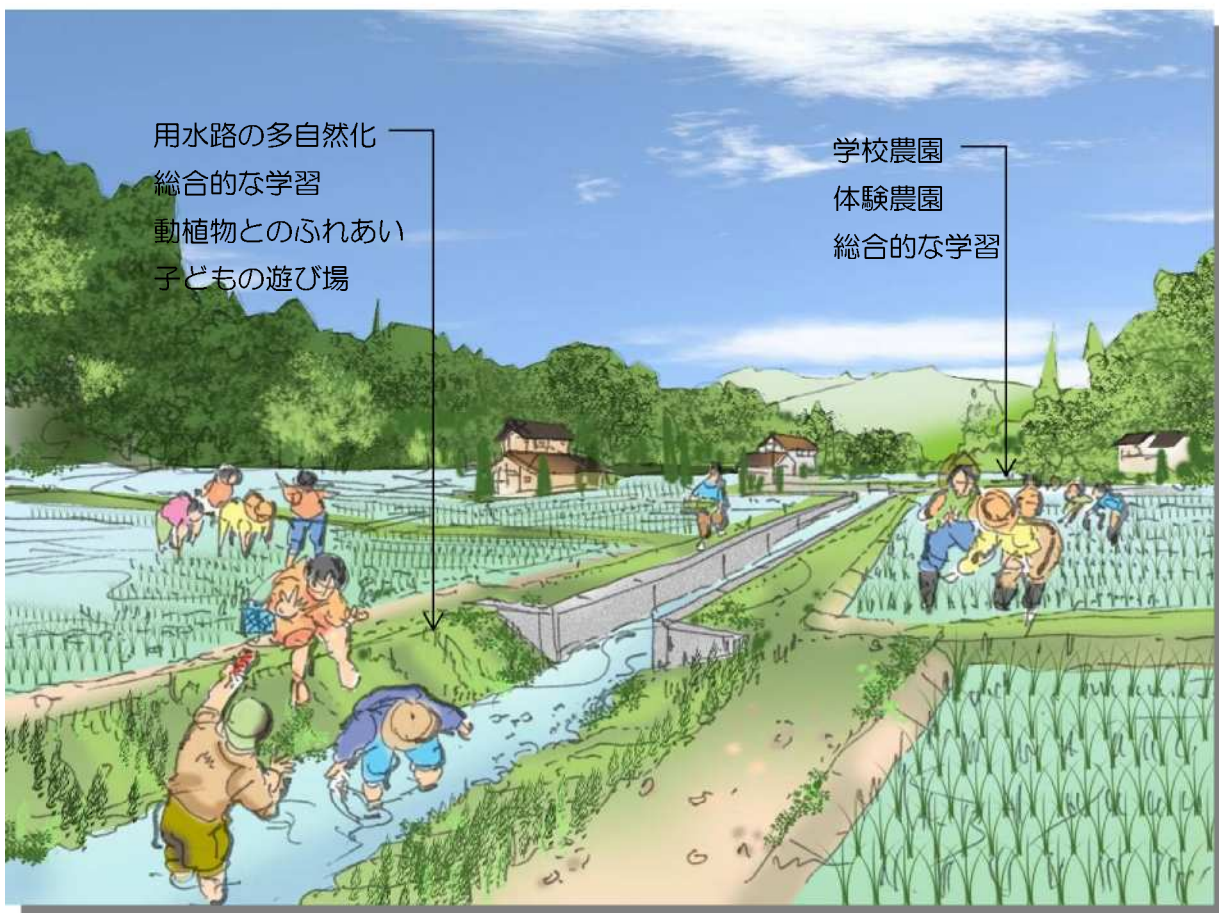
また、農業用水路などには、適所に親水化や多自然化が施され、自然景観の創出とともに子ども達がメダカやドジョウ、カエルなど水辺の生き物とふれあえます。

小学生・市民水辺アンケートからの考察

農的環境を通じた生き物とのふれあいや農業体験を望む声が多く、昔ながらの田園にあった自然環境づくり、景観や生き物とのふれあいなど農地の多面的機能を発揮する整備が期待されます。

<将来イメージ図>

水路の多自然化と農業体験等の活動



用水路の多自然化  
総合的な学習  
動植物とのふれあい  
子どもの遊び場

学校農園  
体験農園  
総合的な学習

## ■市街地の水辺（湧水、地下水、公園、学校、広場 等）の将来イメージ

都市化が進み、水辺が大きく変貌をとげてきた市街地では、湧水、地下水、雨水といった水源を有効活用し、各所に親水スポットがうるおいとやすらぎを与えてくれます。

特に人々で賑わう中心市街地では、湧水地の保全、駅周辺や公園といったオープンスペースの親水施設整備、旧水路敷や歩道のせせらぎなどの整備によって、市民にとって身近でオープンな水拠点を保全・創出するまち中の“水回廊”が形成します。

## 小学生・市民水辺アンケートからの考察

市民や来訪者がまちを巡る中で、厚木の水の豊かさが感じられるように、せせらぎ空間の創出や湧水の保全・活用、人々が集まる広場などでの水辺づくりなどを進めることが期待されます。

<将来イメージ図>

都市水路計画（せせらぎ）

